

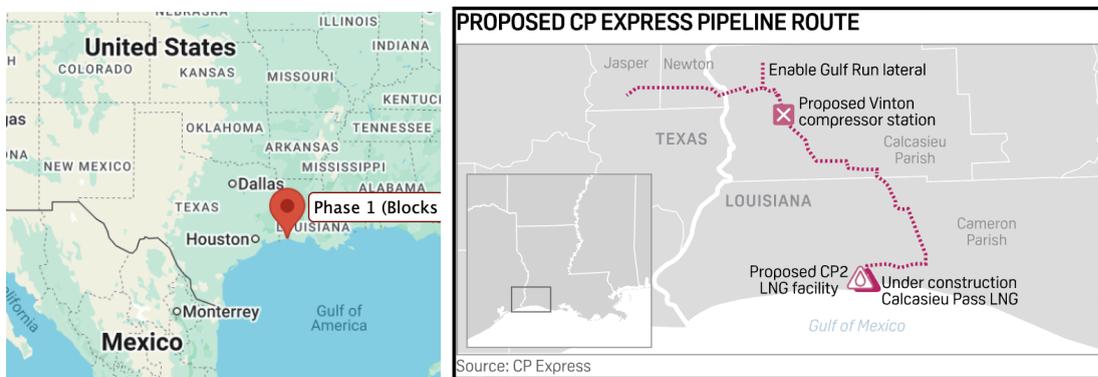
ファクトシート
カルカシューパス2(CP2)LNGターミナル事業
2026年2月
「環境・持続社会」研究センター(JACSES)

1. 事業の概要

・事業内容

- 本事業は、Venture Globalによる、テキサス州ジャスパーから同施設まで全長約144.8kmのパイプラインを敷設し、米国ルイジアナ州キャメロンで年間最大2,400万トン(mtpa)のLNGを生産する計画である。本施設は、各液化ブロック(定格容量約110万トン/年)18基、LNG貯蔵タンク4基、海上積出バース2基、1,400MWの複合サイクルガスタービン発電所1基で構成され、既存のカルカシューパスLNGターミナル(CP1)に隣接されて建設される予定である¹。

・サイト位置



・事業費

- フェーズ1(ブロック1~9) : 151億米ドル
フェーズ2(ブロック10~18) : 不明

・事業実施者

- フェーズ1及びフェーズ2: Venture Global CP2 LNG (親会社: Venture Global Holdings)

・EPC契約者: Worley

・金融機関

- フェーズ1及びCP Express Pipeline
融資銀行: Bank of America, Barclays, Bayern LB, BBVA, CIBC, Deutsche Bank, FirstBank, Flagstar, Goldman Sachs, Helaba, ICBC, ING, Intesa, J.P. Morgan, LBBW, Mizuho, MUFG, Natixis, NBC, Nord LB, Raymond James, RBC, Regions, Santander, Scotiabank, SMBC, Standard Chartered, Truist, Wells Fargo²

¹ https://www.gem.wiki/CP2_LNG_Terminal#cite_note-31

²

https://ventureglobal.com/2025/07/28/venture-global-announces-final-investment-decision-and-financial-close-for-phase-1-of-cp2-lng/?utm_source=substack&utm_medium=email

- CP2の保険引受者は不明だが、CP1の保険引受者は次の通り³: National Union Fire Insurance Company of Pittsburgh, General Security Indemnity Company of Arizona, Zurich, Liberty Surplus Insurance Corporation, Lloyd's Syndicate, Swiss Re, Markel International Insurance Company, Allianz, Great Lake Insurance, Endurance Worldwide Insurance (SOMPOの子会社), AXA XL, Aspen Lloyd's Syndicates, Convex, Arch Insurance, QBE UK, Helvetia, Partnerre Ireland Insurance, Lancashire insurance company, Probitas Lloyd's Syndicate, Everest Lloyd's Syndicate, Starr surplus lines insurance company, National Fire & Marine Insurance Company, Associated Electric & Gas insurance company, Houston Casualty Company (東京海上の子会社), ARK Lloyd's Syndicate, HDU Lloyd's Syndicate, NOA Lloyd's Syndicate

・操業開始予定

- フェーズ1(ブロック1~9):2027年
フェーズ2(ブロック10~18):2030年

2. 事業の経緯

2021年12月	CP2 LNGターミナル及びCP Express Pipelineの建設及び設備維持の許可取得のため、Venture Globalが米国連邦エネルギー規制委員会(FERC)に申請書を提出。
2022年7月	Venture Globalが事業の累積的影響に関する生物学的評価及び分析の草案に関する情報提供を行わなかったため、FERCがCP2 LNGターミナル及びCP Express Pipelineの環境レビュープロセスを一時停止。
2023年5月	Worleyが事業建設のEPC契約を獲得。
2024年1月	バイデン政権がCP2を含む新規LNG輸出事業に対し、非自由貿易協定(FTA)国への輸出許可を一時停止すると発表。
2024年6月	バイデン政権によるLNG輸出の一時停止が経済に影響を与えると主張する16州の要請を受け、ルイジアナ州の連邦判事がバイデン政権による輸出停止措置を一時停止。
2024年6月	FERCがCP2を承認。
2024年9月	FERCによるCP2承認に対して、天然資源保護協議会(NRDC)・シエラクラブ・南部環境法律センターが米国DC巡回控訴裁判所に異議申し立てを提出。
2024年11月	FERCがCP2の承認を取り消し、大気及び排出物に関する補足的な環境影響分析を行い、問題が解決されるまで本事業の建設を許可しないと発表。
2025年3月	米国エネルギー省はCP2に対し、非自由貿易協定国へのLNG輸出を条件付きで許可。

2025年5月	FERCがCP2を再承認。
2025年7月	Venture GlobalがCP2のフェーズ1に関する最終投資決定を発表。CP Express Pipelineを含むフェーズ1の資金調達総額は151億米ドル。
2025年8月4日	CP2浚渫工事で事故が発生。地元漁師が漁業地域において大量の泥・シルトの残土が流出しているのを発見 ⁴ 。
2025年10月	天然資源保護協議会(NRDC)・シエラクラブ・アースジャスティス・南部環境法律センターが、FERCのCP2承認に異議を唱える冒頭陳述書を米国DC巡回控訴裁判所に提出 ⁵ 。

3. 主な問題点

3.1 大量のCO2排出及びメタンガス流出による大気及び気候への影響

本事業から生産される年間最大2,400万トンのLNGは、ライフサイクル全体で炭素換算で約7,000～8,000万トンもの温室効果ガスを排出する可能性がある。LNGの主成分であるメタンガスは、大気に熱を閉じ込める効果が二酸化炭素よりも28倍あると言われており⁶、LNGの生産・供給過程で待機中に容易に漏れ出すことで、大気汚染・気候変動を悪化させる可能性がある。メタンガスの流出及び輸送過程で生じる排出量を考慮した場合、気候へのネガティブな影響は、石炭よりも24倍大きいと言われている⁷。

3.2 浚渫工事による大量の土砂の流出

現地の漁業者によると、2025年8月初旬、浚渫工事によって大量の泥及びシルトの残土が河川、カルカシュー湖及び漁場に流出し、カニやエビが死滅した。ルイジアナ州エネルギー天然資源局(LDNR)の調査によると、約6,100～14,500立方メートルの浚渫土砂が漁場及び公共湿地に流出したことが判明し、少なくとも1平方kmの湿地に被害が生じ、カキ漁期に甚大な被害が出た⁸。また、浚渫船の往来は川底の魚類、エビの卵や幼生にとって致命的であり、個体数の減少を引き起こしている⁹。

⁴ <https://gasoutlook.com/analysis/dredge-operation-near-venture-globals-cp2-spills-into-fish-habitat/>
 浚渫事故に関する報道等を含む時間軸は以下のURLより閲覧可能。
<https://habitatrecovery.org/cp2-timeline>

⁵

<https://www.selc.org/press-release/coalition-files-opening-brief-challenging-fercs-cp2-lng-export-facility-approval-in-louisiana/>

⁶

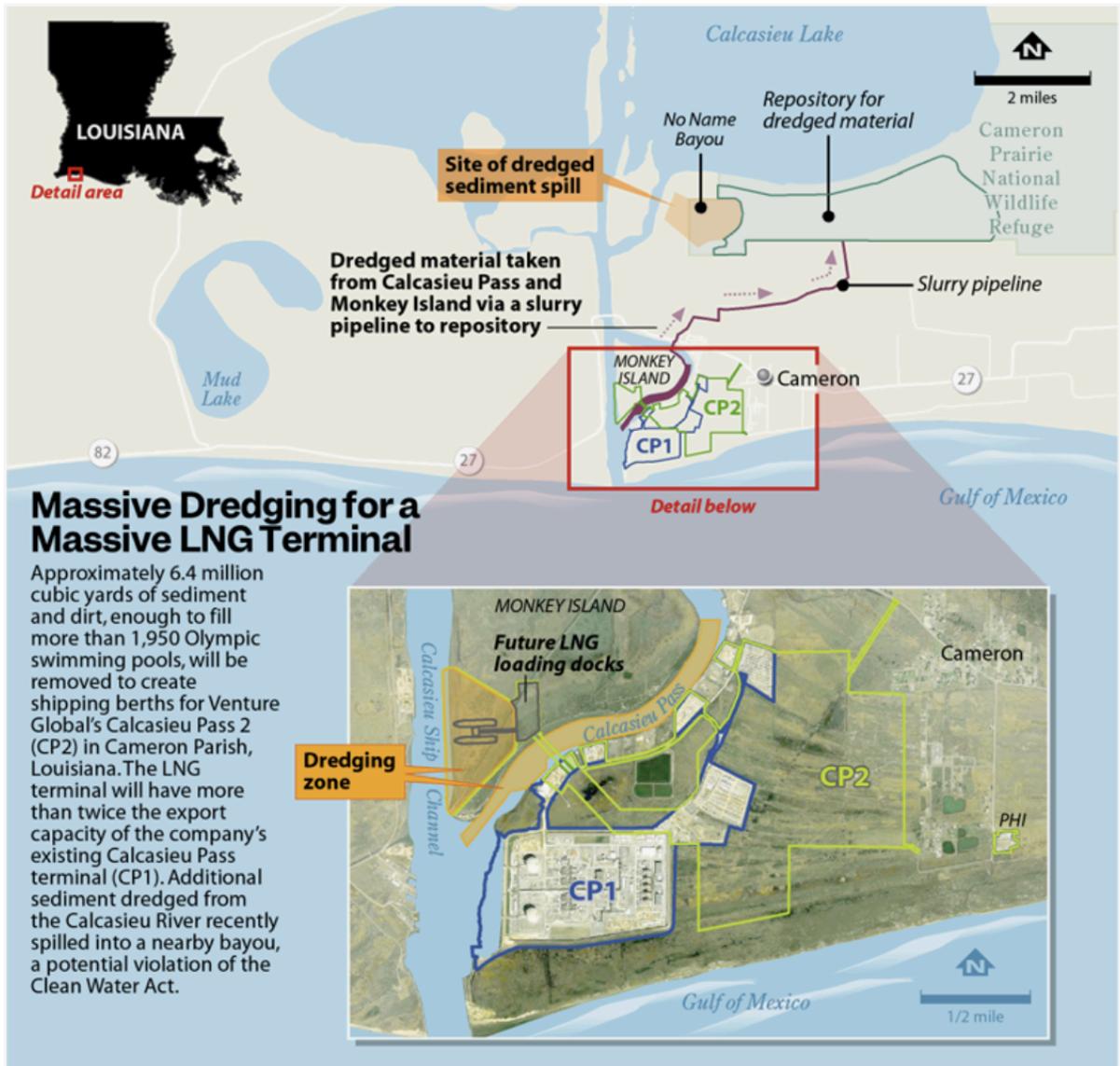
<https://www.epa.gov/gmi/importance-methane#:~:text=Methane%20is%20more%20than%2028,due%20to%20human%2Drelated%20activities>

⁷

https://www.research.howarthlab.org/publications/Howarth_LNG_assessment_preprint_archived_2023-1103.pdf

⁸ <https://gasoutlook.com/analysis/dredge-operation-near-venture-globals-cp2-spills-into-fish-habitat/>

⁹ <https://gasoutlook.com/long-read/louisiana-lng-could-be-nail-in-the-coffin-for-local-fishermen/>



3.3 LNG船舶の往来による漁獲量の減少

現地の漁業者によると、既存のCP1及び隣接するキャメロンLNGの船舶の交通量増加によって水域に大きなうねりが生じ、水質を濁らせ、魚類やエビの生息地を破壊した結果、既に漁獲量が激減した¹⁰。過去10年間のカルカシュー地域のエビの平均漁獲量は約680万キログラムだが、2024年にはわずか約3万4千キログラムにまで減少した¹¹。CP2の操業が開始された場合、浚渫による土砂の流出とあいまって、より多くの漁業者が生計手段を失う可能性がある。

3.4 有害物質排出による現地住民の健康被害

現地住民によると、既存のCP1の高頻度なフレアリングによって、二酸化硫黄(SO₂)、窒素酸化物(NO_x)等の有害物質が排出され、大気汚染が悪化し、鼻血、喘息、癌等の健康状態の悪化の報告が確認されている。CP2は更なる大気汚染を引き起こし、年間8人の早死を引き起こすリスクがある¹²。

¹⁰ <https://gasoutlook.com/analysis/dredge-operation-near-venture-globals-cp2-spills-into-fish-habitat/>

¹¹ <https://insideclimatenews.org/news/07092025/louisiana-lng-terminals-shrimp-fishing/>

¹² <https://www.greenpeace.org/static/planet4-usa-stateless/2024/12/86998834-permit-to-kill.pdf>